

月刊

通巻

606

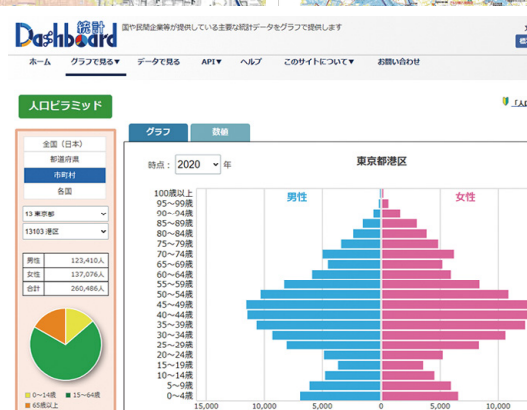
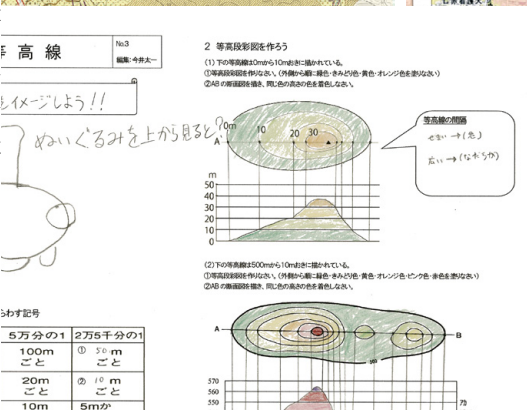
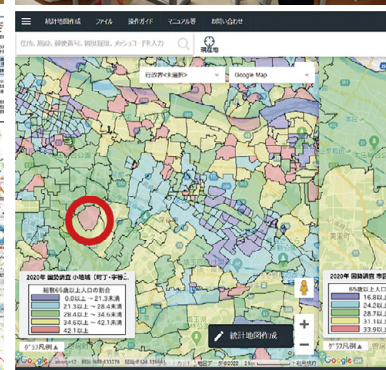
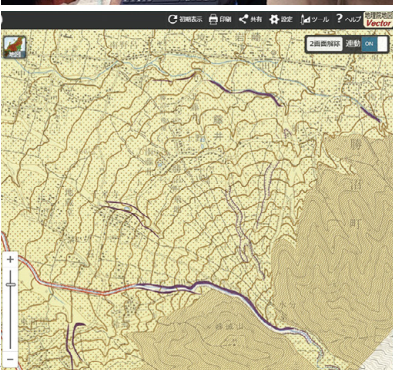
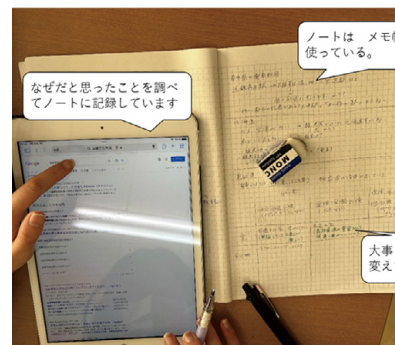
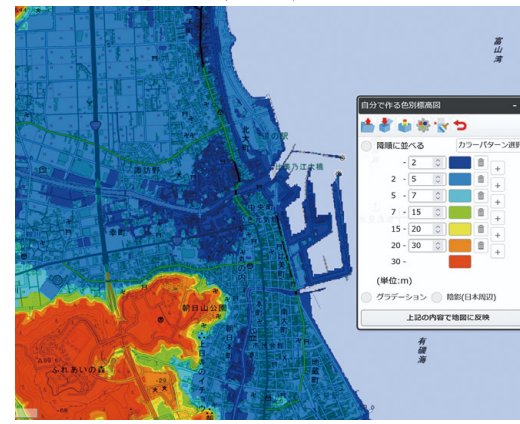
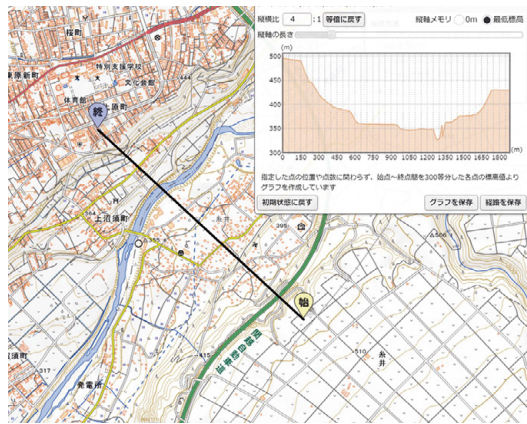
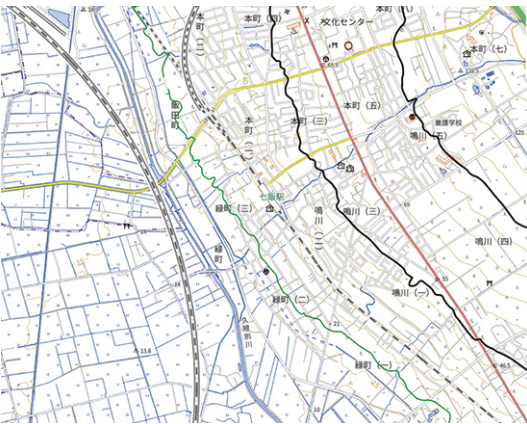
2023年3月

300



地図と学ぶ

特集「地理総合」実践教室



地図中心 606号 目次【特集「地理総合」実践教室】

必履修「地理総合」の一年	坂口 克彦	3
聞こえに課題のある生徒の高校地歴科の授業実践－地理院地図を活用して－	岸本 りさ	6
積雪時における地震・津波防災のフィールドワーク～氷見市中央部を例として～	野村 奈央・木村 圭司	9
ローカルな問題を発見し、解決策を考える力を養う － jSTAT MAPとGoogle Map ストリートビューの操作から－	佐藤 洋	12
定時制高校生生徒、地形図で学ぶ	今井 太一	14
地理院地図を使って地形を大観しよう	井上 明日香	16
「地理総合」におけるGISサイトについて	小宮山 幸男	18
「地理」初心者がつくる地図比較を用いた「地理総合」授業実践	臼井 太一	20
地理総合におけるデジタル地図の活用事例	高岡 達弥	22
「地理院地図」を活用して土地のリスクを正しく把握する －なぜ高校はこの場所に建てられたのか？－	木谷 隆太郎	24
地理総合における問いを重視した地形学習：扇状地を例に	後藤 賢	26
地理情報システムを活用した「扇状地」地形の学習	佐藤 亨	28
地図地理検定が地理総合をサポートします！	地図地理検定事務局	30
第26回全国児童生徒地図優秀作品展受賞作品	編集室	32

【連載】

《日本列島 1/20万 鶴の目鷹の目 21》電子地形図 20万「高田」-2	小泉 武栄	34
《地図づくり最前線 011》紙地図のノウハウを活かしたマップルの新しいベクトル地図	片岡 義明	36
《脳内散歩地図 139》信長公記地図 その18	江川 達也	38
《日本百名山が見える鉄道 見えた鉄道 08》上越線から巻機山、魚沼駒ヶ岳	清水 長正	42
《歴史舞台地図追跡 81》江戸・東京をめぐる虚像と実像（その拾壹）	谷口 榮	44
《地図を片手に大地を駆ける 75》奥武蔵マウンテンオリエンテーリング2022	柳下 大	46
新刊地形図案内 / 48	今月新刊の見どころ！・地図倶楽部月報 / 49	
編集後記・次号予告 / 50	地図大使親書 / 52	

月刊 地図中心

◆「地図中心」は毎月10日発行です◆

1冊 880円（税込）

地図倶楽部

◆紙版と電子版のご購読会員
年間購読1年間 12冊

プレミアム会員

6,600円（税・送料込）

プレミアム会員（シニア）満65歳以上

5,500円（税・送料込）

◆電子版のみのご購読会員（紙版は送付されません）

地図倶楽部会員	会費（税込）	入会資格
一般会員	5500円	なし
一般会員（シニア）	4400円	満65歳以上
学生会員	2200円	学生または18歳未満の方

地図倶楽部事務局
map-club@jmc.or.jp 03-3485-5417

《表紙》

地図や写真は、本誌特集より引用したものである。
引用ページ上段より
29、17、10 3、15、8、8
27、23、20、13 15、19、25

好評
発売中

地図地理検定（一般） 過去問集 新選100



◆過去10回分の出題から100問を精選

◆5つの分野別に詳しい解説

※一般は基礎に名称変更し、出題分野を整理しましたが、対応しています!!

●地図地理検定の受検対策として、また

地図地理の基礎を学ぶために、
ぜひお手元に!

「地理総合」・「地理探究」に
私も推薦します!

地図大使
石原良純氏



A4版・105ページ／1,100円（税込）／2021年4月15日発行

必修「地理総合」の一年

さかぐち かつひこ
坂口 克彦

1. はじめに

2022年4月から必修の「地理総合」が高校教育現場で始まりました。河合塾の調査で初年度導入予定校は63%でしたが、東京都立高校では、ほぼその数値通りでした。本「地図中心」誌では、この「地理総合」実施を前にして、通巻590号で「特集 地理総合へ【紙地図編】」(2021年11月)、通巻594号で「特集 地理総合へ【地理院地図編】」(2022年3月)と2回にわたり、新科目「地理総合」をめぐる授業構想案や導入に当たっての期待と課題が紹介されました。今号では「地理総合」開始1年という段階で再び特集をとということで大学院生、若手教員、中堅教員、ベテラン教員、および大学の先生方というバラエティに富む執筆陣が集まりました。その中で筆者は指導教諭という職種でもあり、敢えて地理専門外の高校教員の方々に向け、「地理専門外教員にもできる地図学習」を論じたいと思います。

2. 導入初年度に「地図」はどのように扱われたのか

高等学校地理歴史科地理総合という科目は、内容が大きく3分野に分かれています。A. 地図や地理情報システムで捉える現代世界、B. 国際理解と国際協力、C. 持続可能な地域づくりと私たち、という3つです。「地図」は特に内容A. と地域調査学習を含む内容C. で取り扱われます。なお、文部科学省は上記の3分野をこの順序で学習させることを求めています。よって第1学期には「地図」学習が全国で実施されたことになります。ここで日本学術会議地理教育分科会が高校教員に1学期終了時点でアンケートしたデータを紹介します。

(1) 内容A「地図・GIS」はどう授業されたのか

「終了した」66.7%、「一部割愛して実施」7.7%、「他単元に内容盛り込み」5.1%という結果で、1学期で終了したのは79.5%でした。「終了せず2学期に継続実施」も17.9%あり、実施率は97.4%です。久々の地理必修化で地理専門外の先生方も多く担当する中で(このアンケートで地理専門外の担当者は42.1%)、この実施率は悦ばしいことです。

(2) 作図演習の実施について

「実施した」57.9%、「夏課題で実施」2.6%でした。なお「2学期に実施」が18.4%ということで、合計78.9%となりました。地理専門外の担当者が多くいることから、知識事項までは教えられても作図までは難しいという状況が発生していると考えられます。

(3) 作図演習の方法

実施および実施予定者のみの結果になりますが、「紙地図」50.0%、「web 地図」37.5%、「GIS ソフト」12.5%でした。地理専門外の担当者が多いことに加え、大学入試対応も考えると地理専門担当者も「紙地図」の重要性を認識していることからと考えられます。

(4) 地理院地図を用いた演習

作図演習実施および実施予定者のみの結果で、「実施」としたのは89.5%でした。地理専門外の担当者にも地理院地図の支持率が高いことが証明された形です。全教科書に操作方法まで掲載されていることも一因でしょう。

(5) 地理院地図を用いた作業

人気が高い地理院地図ですが、どんなことを作業させるのかを複数回答で問うた結果です。「学校所在位置確認」82.4%、「距離・面積計測」67.6%、「色別標高図・3D」58.8%、「新旧空中写真」47.1%、「陰影起伏図」38.2%、「地形分類図」35.3%などが並びました。

3. 地域調査と「地図」

筆者は本誌594号で既に「地理専門外教員でもできる」ことをポイントに、地理院地図を活用した内容A. での「一ノ谷合戦と断面図」、内容C. での「島原大変、肥後迷惑と自然災害伝承碑」の案を紹介しました。一人一台端末で実践し、東京都の教員研修の場などでも紹介し、受講の先生方からの大きな反響もいただきました。今回は同じく「地理専門外教員でもできる」地域調査の実践をご紹介します。内容C. 「持続可能な地域づくりと私たち」の項目で、内容的には、前述の地理院地図の人気項目通りのものを使っています(図1)。

(1) 高校付近の地域をとらえる

第一段階は人気1位の項目、本誌594号でも数々の執筆者が書かれた通り、地理院地図で高校名を検索語として入れて地形図を出し、一定経路上の断面図を作成させます。

第二段階は人気3位・5位・6位



図1 一台端末を利用した地理院地図学習

編集後記

「地理総合」の3分野のうち「A. 地図や地理情報システムで捉える現代世界」に対応して、多くの先生方が「地理院地図」を利用されています。地理院地図には、本編にもあるように「地形分類」・「断面図作成」・「標高段彩図」等々、様々な地図表現が可能です。

地理院地図の中には、「地理院地図 Vector」(<https://maps.gsi.go.jp/vector/>)という機能もあります。標準地図などのベクターデータをレイヤーごとに表示のオンオフが可能です。図1・図2は、いずれも地理院地図 Vector で作成したものです。図1は、標準地図の等高線を主に表示したものです。図2は、標準地図の等高線のうち計曲線のみをやや太く表示して、更に陰影起伏図と傾斜量図を重ね合わせたものです。

右のQRコードは、図2の元になっている地理院地図 Vector の URL です。レイヤーのオンオフを是非試してみてください。

(編集長・小林政能)

図1・2とも、地理院地図 Vector (2023年2月取得)

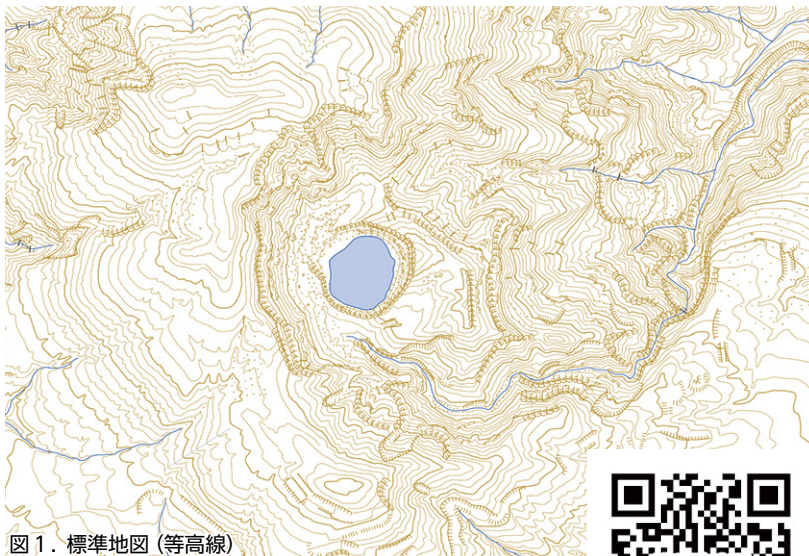


図1. 標準地図 (等高線)

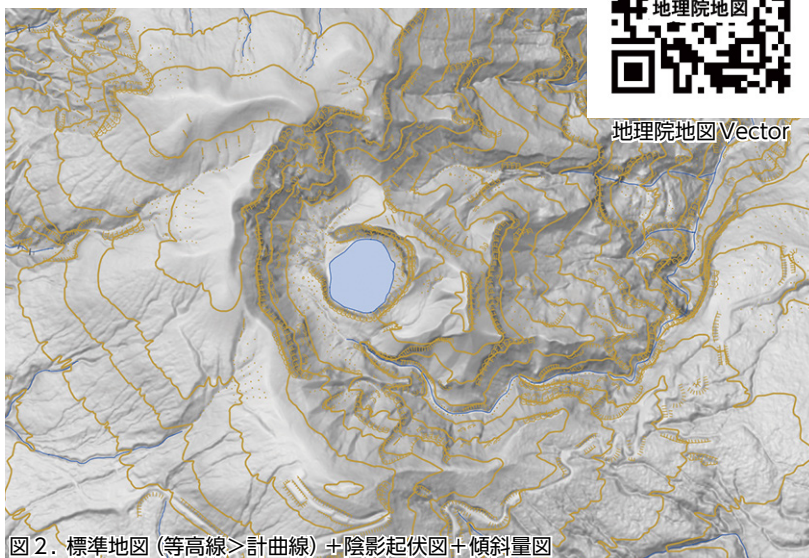


図2. 標準地図 (等高線>計曲線) + 陰影起伏図 + 傾斜量図

次号予告 2023年4月 通巻607号

毎月10日発行

地図と学ぶ月刊

地図中心 総特集

日本板碑大全

いたび
板碑とは、板状に加工した石の供養塔の一種。鎌倉時代から室町時代まで、関東地方を中心に全国で数万基が確認されています。板碑は、緑泥片岩を加工して作られ、その緑泥片岩は、三波川変成帯から主に産する岩石。三波川変成帯は、関東から九州まで続いている地質帯で…
日本中の板碑を地図で解きほぐします。

東京都板橋区・龍福寺境内 (2018年1月31日撮影)



参考：文化遺産オンライン

バックナンバーのご案内

地図中心

検索

「地図倶楽部」へのご入会をお待ちしています! 03-3485-5417(事務局)

地図中心
2023-3 通巻606号

発行 2023年3月10日

発行所 一般財団法人日本地図センター
〒153-8522

東京都目黒区青葉台4-9-6

電話 03-3485-8125

FAX 03-3485-5593

(「地図中心」編集室)

メール chushin@jmc.or.jp

URL <https://www.jmc.or.jp>

©一般財団法人日本地図センター

定価 880円(税込)

印刷所 昭栄印刷株式会社

地図と学ぶ月刊誌



本誌の一部あるいは全部を無断で複写・複製・転載することは、法律で認められた場合を除き、禁じられています。

第39回



主(一財)日本地図センター
催(公財)国土地理協会

全検
ZENKENKIKOU
機構

地図地理検定



地図大使 石原良純さん

地図地理検定
私も推薦します！

等高線や地図記号の意味
を知れば、地図に描き込
まれた無限の情報が理解
できます。

★CPDポイントが付与されます
<基礎> 100点…2割 90点～99点…1割
<専門> 博士…5割 準博士…4割 1級…3割
2級…2割 3級…1割

*「一般」の名称が
「基礎」に変わりました

★団体受検がおすすめ！
5人以上集まれば、
いつもの場所で受検可能◎

検定実施日 **2023年6月18日** (日)

申込締切:6月上旬 (詳細は下記地図地理検定のHPにアクセス!!)

検定の種類

「基礎」と、さらに高度な「専門」の2レベルに挑戦できます！

実施時間 ◇基礎◇ 13:30～14:20(50分)/20問 (全問択一式 100点満点)
◇専門◇ 15:00～16:00(60分)/24問 (択一式15問・記述式9問 100点満点)

「個人受検」または「団体受検」のどちらかで受検できます！

受検の方法

個人受検

募集要項

受検資格：どなたでも受検できます。
検定会場：札幌・仙台・東京・名古屋・大阪
・広島・福岡
受検料：基本受検のほかに、リピーター割引、
学生割引、シニア割引、地図倶楽部
会員割引があります。

	基礎のみ受検	専門のみ受検	基礎・専門併願受検
基本	3000円	4000円	5000円
各種割引	2000円	3000円	4000円

申込方法

- 振替払込 (ゆうちょ銀行・郵便局) …… 締切日 2023年6/7 当日消印有効
このリーフレットにある払込取扱票をご利用ください
- 郵便 (現金書留) …… 締切日 2023年6/7 当日消印有効
- インターネット (クレジットカード決済、コンビニ決済) …… 締切日 2023年6/2

募集要項

受検資格：5名以上
検定会場：学校、会社等

受検料：
(1人あたりの料金)

	基礎のみ受検	専門のみ受検	基礎・専門併願受検
一般企業 社会人等	2500円	3500円	4500円
学 校 生	1500円	2500円	3500円

申込方法

ホームページをご覧ください、
お申込みください。ご不明な点
はメールでお問合せください。

団体受検



詳細は… <https://www.jmc.or.jp/keihatsu-kyouiku/chizuken/>

郵送先・その他問合せ先 一般財団法人 日本地図センター 地図地理検定事務局 (文化事業部内)
〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6
Tel.03-3485-5417 ●Fax.03-3485-5593 ●E-mail:ken2@jmc.or.jp

インターネットによる申込の問合せ先 Tel.03-3233-4808 E-mail:info_kentei@nippan.co.jp
〈日版セグモ㈱へ業務を委託しております。〉

***** 留意事項 *****

- お申込後の受検料の返金、内容の変更、次回への繰越などはお受けできません。
- お身体の不自由な方は、事前にお問合せください。
- 未成年の方は保護者の同意の上でお申込ください。
- 新型コロナウイルス感染症対策のため、実施にあたっては全国検定振興機構および各自治体の感染拡大防止ガイドラインに沿った対策を講じます。